



柳家花緑

上方落語五流派競演会 vol.6

林
泉
染
丸

桂
米
團
治

桂
文
三

笑
福
亭
三
喬

露
の
都

平成24年 **6月3日【日】** 14:00 開演 (13:30 開場)

茨木市市民総合センター **クリエイトセンター・センターホール**

【全席指定】1階席4,000円／2階席3,500円

◎65歳以上、障害者及びその介助者は500円引き

◎青少年(24歳以下)は1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き

*各会員割引の取り扱いには文化振興財団のみです *就学前のお子様のお入場はご遠慮ください

◆チケットのお申込み・お問い合わせ

(公財) 茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (ユーアイホール1階 9:00~17:00)

*4月20日は電話予約のみです。チケット引取り・窓口販売は翌日から下記のチケットカウンターで
ユーアイホール 9:00~17:00 (火・木は20:00まで 祝日除く) / クリエイトセンター 9:00~17:00

◆その他の販売所 [4月20日店頭販売有り]

ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード 59183) *ローソン各店舗で購入できます

電子チケットびあ 0570-02-9999 (Pコード 418-286) *サンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で購入できます。

◆主催:公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/一般社団法人茨木市観光協会

◆制作:三栄企画 ◆構成:相羽秋夫

平成24年4月1日、当財団は公益財団法人となりました。

【番組】
「上方落語界の現状」相羽秋夫

*
「四人辯」桂文三
「子盗人」笑福亭三喬
「親子茶屋」桂米團治

中入り
「堪忍袋」露の都
「権助提灯」柳家の花緑
「三十石夢の通い路」林家染丸

お囃子/なにわの会

4月20日(金) 9:00 電話予約開始

残席がある場合は翌日から窓口販売いたします

今回も強力な顔ぶれと素晴らしいゲスト



相羽秋夫（演芸評論家）

「上方落語五流派競演会」が、六回目を迎えた。もうすっかり茨木の街に定着している。私なども毎年の冒頭で解説をさせていただいている関係で、顔を覚えていて下さって、茨木の街を歩いていると「今年も行きますよ」と声を掛けて下さる方が多くなった。

あえて会の趣旨を説明する必要がないと思うが、それでも初めて接しられる方もおられると考えられるので、簡単にお話しておこう。

上方落語界は、二百人を越す多くの落語家が競っている。その大きな流れが五つある。米朝一門、春団治一門、文枝一門、笑福亭一門、それに林家一門の五つである。

この会は、その五流派から一人ずつ代表者を送り込んで腕を争うものである。今回も素晴らしい顔ぶれが揃った。さらに東京から切り札とも言えるべきゲストを迎えた。

トップは「文枝門下」の桂文三である。

文三は見るからに落語家らしい雰囲気を持っている。「ぶんざ」と読んでいただきたい。

文枝一門の大きな名前で、入門してすぐの頃は、つく枝と名のついていた。当代で五代目に当たる。

落語家の基礎になる日本舞踊や太鼓、笛、三味線などの楽器を自由に扱う器用さを持っている。

文三襲名後、師匠文枝の演じた噺を継承することを心がけ、次々と高座にかけてきた。今宵演ずる『四人癖』も師匠ゆずりの一席で、文三らしい味を出しつつ、動きの多い演目に挑戦する。

二番手は「笑福亭一門」の笑福亭三喬である。

故六代目松鶴の弟子の松喬の一番弟子である。現在師匠が体調をくずしたため、ふくれ上がった松喬一門のとりまとめに奔走している。

芸熱心で、古典から創作まで幅広く演じこなす能力を持っている。そうした努力が認められて、文化庁芸術祭優秀賞をはじめ、数々の賞に輝いている。

盗人、つまり泥棒の出でくる噺を得意としているが、『子盗人』もその一つである。非常に珍らしい演目で、永らく誰もやらなかったが、米朝が発掘したものを、三喬も演じている。

「米朝一門」からは、桂米團治が代表する。説明するまでもなく人間国宝米朝の長男で、小米朝という名でデビ

ューしたが、四年前に米朝の師匠の名前である五代目米團治を襲名した。

襲名後、めきめきとその存在感を強め、上方落語界の中の地位を高めている。二世落語家の象徴のようなイメージが、うまく人々の中で機能してきた。

演じる噺の範囲も広く、『親山茶屋』のような「はめもの」の入る演目もうまくこなしている。ピアノの弾ける落語家としても有名である。

「中入り」をはさんで、「春団治一門」の露の都が登場する。

どうして春団治一門かと言うと、都の師匠である二代目露の五郎兵衛は、前々名桂小春団治と名のり、現春団治の弟子に当たるからである。

都は、東西を通じて初の女流落語家である。都の前にも他の門下に何人かの女性が入門したが、いずれも長続きしなかった。

都は、そうした中でけんめいがんばり、女流落語家の地位を確立した。近年NHKのドラマ「ちりとてちん」で一層女流の注目度を高めた。

「堪忍袋」は夫婦の機微を描いたもので、都の手によってどう変わるか楽しみだ。

トリは、ざばり「林家一門」の御大代目林家染丸である。

林家一門の統帥として、多くの弟子を引っぱっている。「他の一門に取れないようがんばろう」と、鼓吹してきた。その成果が実って林家一門は、五流派の中でたくましく立ち向っている。

一方で、上方落語にとって欠かすことの出来ない下座音楽の囃し手をたくさん育成してきた。

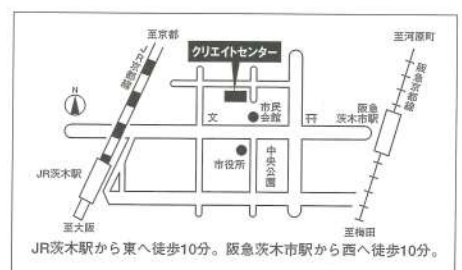
ことに三味線の演じ手を次々に世に送り出している。そうした努力が認められて芸術選奨に輝いた。『三十石夢の通路』は、こうした成果の上に成り立っている。

そして、そして、東京より柳家花緑を招く。ご存知故柳家小さんの孫として知られ、東京で人気のある落語家の一人である。

語り口調に独特のムードがあり、皆さんもその魅力のとりこになることを請け合う。

今回の豪華メンバー、必ずや話題を呼ぼう。毎年チケットが完売する。一日も早い対応をお願いしたい。

〈敬称略〉



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木駅から西へ徒歩10分。

◆チケットのお申込み・お問合せ

- (公財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)
- * 財団の発売初日は電話予約のみです。座席はお選びいただけませんので予めご了承ください。
- * 予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。
- * 予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金十郵送料400円〉を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。〈振替口座〉00970-7-190576/加入者名:茨木市文化振興財団

◆クリエイトセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726